

17 福祉

(1) 改訂のねらい

福祉ニーズの高度化と多様化，倫理的課題やマネジメント能力・多職種協働の推進，ICT・介護ロボットの進歩などを踏まえ，福祉を通して，人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人を育成するよう学習内容等の改善・充実が図られた。

(2) 科目編成

ア 科目構成と標準単位数は次のとおりである。

科 目	(標準単位数)	科 目	(標準単位数)
社会福祉基礎	(2～6)	介護総合演習	(2～3)
介護福祉基礎	(2～6)	介護実習	(2～16)
コミュニケーション技術	(2～4)	こころとからだの理解	(2～10)
生活支援技術	(2～12)	福祉情報	(2～4)
介護過程	(2～6)		

イ 福祉の各分野の情報及び情報手段を活用する能力を育てる観点から，情報社会において個人の果たす役割や責任などの情報モラル及び情報通信ネットワーク，情報セキュリティを確保する能力を育てる科目として内容を整理し，「福祉情報活用」を「福祉情報」に名称変更した。

ウ 福祉に関する各学科の原則履修科目は，「社会福祉基礎」と「介護総合演習」である。

(3) 科目の内容

ア 介護福祉士養成課程の見直し（平成23年）により追加された喀痰吸引・経管栄養を安全，適切に実施するため，「生活支援技術」の内容に医療的ケアが追加された。

イ チームケアを実践することに対応するため，「社会福祉基礎」の社会福祉援助活動においてリーダーシップなど組織についての学習の充実が図られた。

ウ 福祉従事者に必要な倫理に関する学習の充実が図られた。

エ 「介護福祉基礎」，「コミュニケーション技術」，「生活支援技術」，「介護過程」，「介護実習」において，多職種協働に関する学習の充実が図られた。

オ 「介護福祉基礎」，「生活支援技術」，「こころとからだの理解」において，「福祉用具と介護ロボット」についての学習の充実が図られた。

(4) Q & A

Q 1 「福祉の見方・考え方」とは何か。

生活に関する事象を，当事者の考えや状況，環境の継続性に着目して捉え，人間としての尊厳の保持と自立を目指して，適切かつ効果的な社会福祉と関連付けることを意味している。

Q 2 福祉教育の意義と専門教科「福祉」の位置付けについて，どのように捉えればいか。

福祉教育には，社会福祉の業務に従事する専門的な職業人の育成の側面，高等学校で福祉の基礎・基本を学び，より学習を深めたいという進路希望をもつ生徒に対しての進路選択の一つとしての側面，国民としての福祉的な教養を身に付けるための側面の三つがある。生徒の実態

や地域、学校の状況に応じた福祉教育が適切に行われるよう配慮しなければならない。専門教科「福祉」は、広く社会福祉に関する内容をまとめたものであり、福祉関連資格（介護福祉士国家試験受験資格、介護員養成研修事業）との関連の深い専門教科としての科目構成になっている。具体的には、省令「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」の別表第5（第8条 関係）に定める教科及び単位数、通知「福祉系高等学校等の設置及び運営に係る方針について」の内容を含めたものとなっている。介護福祉士国家試験受験資格に対応する教育内容は、①介護が実践の技術であるという性格を踏まえ、その基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「人間と社会」、②「尊厳の保持」、「自立支援」の考え方を踏まえ、生活を支えるための「介護」、③多職種協働や適切な介護の提供に必要な根拠としての「こころとからだのしくみ」の3領域で構成されている。

Q 3 介護福祉士等の資格取得を目指さない学校における福祉教育の在り方についての留意点は何か。

専門教科「福祉」には、幅広く高校生に学ばせる教科という側面もあることから、各学校がどのような生徒を育てたいのか、どのように福祉を学ばせるのかを検討し対応しなければならない。資格取得を目指さない学校において留意しなければならない点は、何を目的に「福祉」を学ばせようとしているか、その目的を具体化して指導できているかである。学校における学びと福祉活動・体験を一体化して指導する必要がある。福祉の一部のみを取り上げて指導することがないよう福祉の全体を捉え体系的な指導をする必要がある。

Q 4 指導計画作成に当たっての配慮事項は何か。

福祉の見方・考え方を働かせ、生活に関する事象を捉え、専門的な知識や技術などを基に実際の福祉に対する理解を深めるとともに、新たな社会福祉の創造や発展に向けて実践的・体験的な学習活動の充実を図ることが大切である。

- 1 福祉に関する各学科においては、「社会福祉基礎」及び「介護総合演習」を原則としてすべての生徒に履修させる。なお、科目の性格やねらいなどからみて、「社会福祉基礎」は低学年で、「介護総合演習」は「介護実習」の指導と併せて履修させることが望ましい。
- 2 「社会福祉基礎」「介護福祉基礎」は、福祉・介護を学ぶための基礎的な科目であることから、社会福祉の向上及び自立支援を支える介護に関する基礎的な資質・能力を育成するため、一部の内容に偏ることがないよう指導項目の全てを取り扱うこと。生徒や地域の実態、学科の特色等に応じて、バランス等を勘案した指導が必要である。
- 3 「コミュニケーション技術」「生活支援技術」「介護総合演習」「こころとからだの理解」は、資格取得を目指す生徒以外にも多くの生徒が学ぶことが想定されていることから、〔指導項目〕の(1)から(3) or (1)から(5)までについては、生徒や地域の実態、学科の特色に応じて、いずれかを選択して指導することを可能としている。
- 4 「介護過程」「介護実習」は専門性が高く資格取得に直結した内容で構成されていることから、資格取得を目指す生徒以外の履修が想定されていないため、選択の規定を付けていない。
- 5 福祉に関する各学科においては、原則として福祉科に属する科目に配当する総授業時数の10分の5以上を実験・実習に配当する。
- 6 地域や福祉施設、産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れるとともに、社会人講師等を積極的に活用するなどの工夫に努める。

Q 5 専門教科・科目による必履修教科・科目の代替は可能か。

専門教科・科目の履修によって必履修教科・科目と同様の成果が期待できる場合は、その専門教科・科目の履修をもって必履修教科・科目の一部又は全部に替えることができる。福祉に関する各学科では、「介護総合演習」の履修により、総合的な探究の時間の履修と同様の成果が期待できる場合においては、「介護総合演習」の履修をもって総合的な探究の時間の履修の一部又は全部に替えることができる。これは、福祉に関する学科のみの規定であり、福祉に関する学科以外の専門学科・普通科・総合学科においてはこの規定は適用できない。また、「福祉情報」は、必履修科目「情報Ⅰ」との代替科目となりうる。代替に当たっては、「同様の成果が期待できる場合」とされていることを踏まえ、代替する科目の趣旨等が損なわれないよう配慮しなければならない。

Q 6 各科目の内容の取扱いに当たっての配慮事項は何か。

- 1 福祉に関する課題について、協働して分析、考察、討論を行い、よりよい社会の構築を目指して解決するなどの学習活動を通して、言語活動の充実を図ること。
- 2 各科目の指導に当たっては、社会福祉の情報化の進展に対応して、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図り、学習の効果を高める。

Q 7 実験・実習を行うに当たっての配慮事項は何か。

介護実習施設や福祉機器を活用した実験・実習が行われることから、関連する法規等に従い、施設・設備や薬品等の安全管理に配慮し、学習環境を整えるとともに、福祉用具や介護ロボットなどの取扱いには十分な注意を払わせ、事故防止などの指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。また、現場実習における事故防止や感染予防など保健衛生に関して事前事後の指導を徹底しなければならない。

Q 8 プライバシー保護に関する配慮事項は何か。

介護実習及び具体的な事例の研究や介護計画作成においては、サービス利用者の人間としての尊厳の保持、自己実現の尊重などに基づく人間理解を基本とし、プライバシーの保護については十分留意させるとともに、関係機関の協力が得られるよう配慮する。また、個人情報についての守秘義務の重要性についても留意する。

Q 9 障害のある生徒などへの指導についての配慮事項は何か。

学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが必要である。その際、福祉科の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないよう留意するとともに、生徒の学習負担や心理面にも配慮する必要がある。